

温古知新③ 菜根譚 3 1

笑顔礼讃西東

セカンドの会 (東京都・大田区) 2 3

新潟大学医学部俳句会 (新潟県・新潟市) 3 4

伊藤亮 (山梨県・甲府市) 5

投稿作品 6 9

心に残った作品 9 10

お客様の「リレーエッセイ」三ツ木宗一 11

詠み人スクランブル(今年一番嬉しかったことは何ですか?) 12 13

新潟ぶらり / 山田花作の横顔 2 14

ニュースあれこれ 15

詠み人の「リレーエッセイ」歌人里見佳保 16

12  
December  
Vol. 77

\*  
「喜怒哀楽」は、  
文芸を楽しむ方々の  
活力の源を目指し  
(株)ミューズ・コーポレーション  
喜怒哀楽書房が  
隔月発行している  
情報誌です。

# 喜怒哀楽

詠み人応援マガジン  
詩歌俳柳壇ニュース



今回は第六項まで、人との付き合い方・あり方の指針をご紹介します。今回は、七項からです。

醜肥辛甘は真味にあらず。真味は只だこれ淡なり。神奇卓異は至人にあらず。至人はただ是れ常なり。

(濃い酒や脂のよくのつた肉、辛すぎるもの、甘すぎるものは、本当の美味しさではない。本当の美味しさは淡泊なもの。人並みはずれた天才は道を修める人間ではなく、道を修める人間は平凡な人間だ。)

特異な人がすごいのではなく、本当にすごい人と言うのは、無欲で淡々と生活している人。

天地は寂然として動かずして、而も気機は息むことなく、停まること少なり。日月は昼夜に奔馳して、而も貞明は万古に易らず。故に君子は、閑時に喫緊の心しるを要し、忙時に悠閑の趣味あるを要す。

(天地はひっそりとして動かないように見えるが、動きを止めることはなく、太陽や月の明るさは永遠に変わらない。だから人の上に立つ者は、暇な時こそ張詰め、忙しい時こそゆったりとした心構えが必要なのだ。)

何気ないときに注意を怠らず、ピンチの時にゆったり構える。それが出来たら真の人物！

夜深く人静まるとき、独り坐して心を観れば、始めて妄窮まりて、真、独り露わるを覚る。毎にこの中において、大機趣を得。すでに真、現われて妄の逃れがたきを覚る。またこの中において、大慚慚を得る。

(人の寝静まった夜中に独坐して自分の本心を観れば、妄念は消え本心が自然と表れてくる。本質と出会うときは一人静かに自分を見つけているときである。また、本心に出会って、さらに妄念を捨てきれないと感じれば、一段と大きい懺悔の心を得る。)

一人自分と向き合う時間を持てる、大事にする人こそ成功できるのかもしれない。

恩裡に由来して害を生ず。故に快意の時、須く早く頭を回らすべし。敗れし後、或いは反して功を成す。故に私心の処、便ちを放つこと莫れ。(「恩」や「愛」から災いが生じる。楽しい気分の良い時こそ、それまでを反省すべきだ。逆に、失敗したから成功したりもする。意に添わなくても投げ出してはいけない。)

好き嫌いや結果ばかりにとらわれるのではなく、大きな目標をもつて、でもそればかりにこだわらずに、ということでしょうか？

今回は十一項から。ゆったりと構えて日々過ごしていきたいと思います。(古川久美子)

# セカンドの会

代表 布施徳子様

(東京都・大田区)

11月21日(金)、東京・大森駅からバスで7分の「大田文化の森」にて行われた超結社「セカンドの会」の句会に、高野公一さんご紹介でお邪魔しました。会の大黒柱、布施徳子さんが体調不良で欠席なのが残念と、皆さん口々に。通常、その場で決めた5〜6つの席題を一時間半で作句したのち句会となるが、本日は欠席者が多く、席題は7つに。

「7句もつくとは大変だなあ」と思いつつ準備をしていると「木戸さんも出してね」と、どこからか明るい声が降ってくる。ここで「無理です」と断ったら女がすたる、えーい、ままよ、と「冬」「霜」「海鼠」「杖」「指」「忘」「書」の7つの席題をクリアすべく、頭はフル稼働。一方、皆さんは手慣れたもので、句を作りつつ発するコメントが秀逸。つい耳をそばだたせてしまう。「写真は載るの？ 顔も俳句もダメ。声はいいんだけどね」「欠席の人の写真、脇に載せてもらおうか」「すぐいい句ができた！きつと点は入らないけどね」「我ながら、よくこうもでたらめな句が作れるよね」「いいのよ、俳句は創作だから」。煮詰まってくると「誰か言葉ください」「えり子さん(本日欠席)のため息を聞かないと、リズムが崩れるわ。

あの焦っているため息が聞こえると安心するのにな。「もう、いろいろ入れて海鼠食うわが霜降りも震わせる」とかどう？。そして、早く句を作り終えた方には「できないと嘘つきながら集まりて。ようやく、一時間半の大仕事を終えると「ああ終わったー。あとは帰るだけね」と、舌先もペン先も緩めない。

口も滑らかなまま、句会開始。

これも旅ひとりで渡る冬の川 栄子

冬の川が意味深かだろうか。出かけることが辛くなった、という程度のことかもしれない／私は三途の川だと思っていた／思わせぶりな句。これをいにとるかどうか。

作者：これは実景で、多摩川を電車で渡って帰ってきたときの句。三途の方にとられるだろうことは十分承知して作った。ダメですかね？

「ひとりで渡る」で「これも旅」だから、三途の方が強く出ちゃう。全部がいやらしい(笑)。

書き損じの稿を猫ふむ小春かな 京子

あたたかい光のなか、稿を踏む猫を見る作者のまなざし。幸せな景がよく見えた／私も採ったがこれは難点がなく、できちゃったなという句。でもよくわかる／誉めてるのかけなしてるのかわからない(笑)／でも、上手。書き損じを踏んでいる猫もえらい。

作者：ありがとうございます。今日は猫にごちそうしないと！

霜月と書いて続かぬ恋の文 輝子

うまいよこれ、可笑しい。霜月もいい



格好つけて時候の挨拶を書いたが、その後が続かなかったということ。

作者：もっとほめて(笑)。三年生の孫が、習った「霜月」を使って日記を書き始めたが、続かなくて。そこから頂戴した。

着ぶくれて杖つくなんて赤い靴 栄子

謙虚なことを言っているようで、最後に赤い靴でーんと自分を出している／私としたことが：という、作者の性格が見えるような明るく前向きな句／この方は、好きなんです。

さよならは葉書一枚霜降る 澄子

来たのか自分が書いたのかわからないが、いい句。まあ葉書が来ただけいいわよね(笑)／「霜降る」が、幕引きという意味ではわかるが「さよならは葉書一枚」で十分に言っているので、違う言葉でもいい／喪中のハガキかも。そ

うすると霜月でいい。

立身も出世もなくて霜柱 鉄哉

平凡に生きて、霜柱を黙然と見ているのかなあと。立身出世していたら霜柱なんか気にならない人生だったかも。

忘年のふわりふわりと蝟の足 繁子

酔っぱらって、ふわふわする格好が蝟の足に見えたとていう：／えっ、これ千鳥足のこと？ 水族館にいるミズダコなんて、まさにこの句のような動きをする。忘年も効いている／蝟の足のふわふわした感じと、何かあったようなないような、年を忘れるときの感じ、その辺の感覚がうまく捉えられている。忘年の句では、あまり見たことがない。

綿虫を抜けて旧約聖書かな 栄子

荒唐無稽なんだけど、旧約聖書が役割を果たしている／こういうのが栄子さんの句。

作者：私のつくり方として「書」だから漠然と今日は旧約聖書にしようと思っ、旧約聖書のどこかを讀んだことにしよう、と考える。大好きな季語「綿虫」



本日、好調  
本京子さんは86歳



いつも披講を担  
当するのはおし  
れな鉄哉さん



▲みなさん、充実したいい笑顔です

海鼠笑ふ欠けたる齒では嘯めまいぞ  
 京子  
 これ、海鼠が言ってるんでしょ？「お前のような欠けた歯で俺を嘯めないぞ」つて。俳人は海鼠を上から見ると、これは逆。海鼠の上から視線がおもしろい。

冬夕焼誰もがわかるカレーの香 繁子  
 誰もがカレーの香をわかる、その通りなんだけど、そんなことを俳句にする

書き癖で彼と知れたる柿届く 輝子  
 きつと毎年送ってくるのでしょ。交友の深さがわかり、いいと思った／一般的な「母」ではなく、「彼」としたところがいい。幼なじみか、忘れられない初恋の人かもしれない。

の、とらえどころのない深くて広くてわけのわからない感じと、同じようにやはりよくわからない旧約聖書を引き合わせた。

立冬の杖に好みの花模様 公一  
 「立冬」に、これからがんばるぞ、という気持ちが進められていい。今は素敵な杖がいろいろある。

近づかぬ子は杖ならず枯律 京子  
 ほんとそうだけど、身につまされ過ぎていやだね。この俳句を見たら、なおさら近づいてこないかも(笑)。

★超結社だけあって、枠を超えるがごとく縦横無尽に闊達に私見を述べる各メンバー。「欠席した人たち(他、吉田香津代さん、長久保通繪さん)が少数精鋭だから」と笑うが、いやはやどうして今日、好調の京子さんは毎回ヘルパーの手を借りてこの会に参加。生死の境をさまよった時期もあったという栄子さんは「ここで死んだら、その後も澄子さんはいい俳句をつくるのか?」と思つたら死ぬに死ねなかつた」と笑う。生きがいがあること、そして支え合う仲間がいること。「人生七十古来稀なり」ならば、それらすべてを手中にして



▲句友でありライバルの栄子さん(左)と澄子さん



▲連日西に東にとお忙しくご活躍される山内さん

提出した短冊は、各人が筆ペンできれいに清記する。選句後の披露は三葉さん。蓋を開けてみるとOBの弓月さんが絶好調。先生から「弓月くん、独占禁

10月31日(金)夜、新潟大学旭町キャンパスに隣接する「康楽会館」において開催された、新潟大学医学部俳句部の句会にお邪魔しました。指導にあたるのは法医学の教授、山内春夫さん(俳号・百雷)。現役の医学生6名とOB1名を交えた句会の展開はいかに！

## 新潟大学 医学部俳句部

指導 山内春夫様  
 (新潟県・新潟市)

やわらかな光を浴びる山紅葉 裕衣  
 裕衣さんの初鳴きの句。まさに俳句を始めたばかりの素直さが出ている。もちろん、どなたの句かわからないで採ったが、このような句を作っていくといいのだろうなーと感じた。

秋晴や港出る船戻る船 三葉  
 「秋晴や」で場面転換をして、うまく俳句を作れている。切れ字の使い方が適切。

歌々と水面に映る月の影 花楓  
 これまで幾度となく詠まれた情景だが、素直に詠っているところに好感を持った。

弓月…準備も何もしないで選んでしまったものですね。初めての講習ですが、客観写生を標榜している会なので、その視点で選びました。

止法だよ。では、今日の講習をお願いします(笑)と急に振られる弓月さん。



▲間違いがないよう真剣に筆ペンで清記する



▲披講担当三葉さん(左)と今日初鳴きの裕衣さん(右)

かな光を浴びる」のフレーズが山紅葉と合っている。

朝日浴び銀杏黄葉の黄金道 枝蛙

すつきりとできた印象の句で、さらつとしていい。

百雷…誰もが見たことのある景でイメージがつきやすい。余計なことは何も言わなくてもいい、ということがわかる句。

実家より少し早めの冬仕度 門四郎

写生ではないが、余計な気持ちを込めずに冬支度をしたというのが写生ともいえる。実家より北に住んでいるということがわかり、字面以上に表わしているものがあり、いただいた。

高き枝の柿つきたる烏かな 三葉

まさに写生句。客観写生に真面目に取り組んでいる姿勢が伝わってくる。

藤豆の鞘はぜ落ちて宙を舞ふ 花楓

最初何のことかわからなかったが、藤棚の鞘のことかと気がついた瞬間、動きのある情景をうまく捉えていると

思い、いただいた。以上、お粗末な講評ですみません。

続いて先生が各句について講評します。

錦木の燃やし尽くさん程の赤 弓月

さりげなく作っているが「燃やし尽くさん程の赤」で、紅葉の赤が燃えるようだとまよく詠っている。

どんぐりを土産がわりにポケットへ 門四郎

最初、一箇所変えようと思ったが、披講を聴いているうちにこれでいいんだと思った。ちよと採り損なつたな(笑)。

石の上弾む栗栗小気味よく 花楓

この句のよさは景とリズム。音が聞こえてくるようないい句。

口開けて月食仰ぎ見る女 弓月

「口開けて」と「仰ぎ見る」が少し重なるから、季節を入れて「口開けて秋の月食見る女」くらいがいいのでは。

ふくふくと猫肥ゆるかな冬支度 花楓

「かな」で少しリズムが落ちるので「ふくふくと猫肥ゆるのも冬支度」「ふくふくと猫肥ゆるると冬支度」なども考えてみたが、「ふくふくと猫肥えてゆく冬支度」にすると、寒くなるにつれ肥えてゆく動きを出せる。情景としておもしろいので、これで何句か作ってみると、より共感を得る句だと思う。

秋風につとんぼが空を舞ふ 六波

当たり前といえば当たり前だが、句

を聞いてその情景が思い浮かぶ、そんな句を作り続けてほしいと思う。

街を行く人急ぎ足秋の暮 枝蛙

これも同様。秋の暮れ、人はみな急ぎ足で歩いているという何気ない情景だが、季節をぴたりと現わしている。

他、高得点句

大銀杏輝く黄葉風に向く 百雷

自販機に赤色増える冬支度 弓月

七色の楓千年を知るといふ 百雷

百雷…今日は取材ということもあり、少し緊張したかな(笑)。裕衣さんも初鳴きができたし、これを縁にどんな俳句を楽しんでください。他、感想を聞いてみようか。

花楓…上の方にいろいろと教えてもらいながら、和気藹々とやっています。名前はわからず採っても、ああ、やっぱりこの人が！と思うような、その人ら



しさが出ている句もあれば、意外な人の句のこともあり、そこがおもしろい。枝蛙…最初は詠むだけで楽しかったが、選ばれるとより楽しいことがわかった。ますます練習して選んでもらいたい(笑)。

百雷…たのもしいな。じゃあ、早く次の場所にいこうか(笑)。

★戦前の新潟医大俳句会は、日本における脳神経外科学の権威であり、俳人としても著名な中田みづほ、法医学の高野素十、浜口今夜、及川仙石というホトトギス派の同人を中心に隆盛を極め、「ミュンヘンのビール」と並び称されるほど、天下にその名が知れ渡っていたという。

この中から第二の中田みづほが生まれるか。若者の行く手は茫洋として、若者は未来そのものです。仲間と師を大切に、何事にも全力でがんばって!

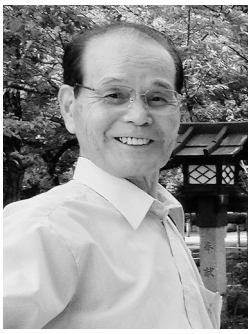
(木戸敦子)



▲俳号は全て山内さんが命名 二次会場「童」にて

# 伊藤 亮様

(山梨県 甲府市)



▲武田神社にご一緒した際の一枚。剣道と居合で鍛えられた真直ぐな姿勢。詩吟、ハーモニカ、ピアノも嗜まれる。

歌集『甲斐の音』、『伊藤亮随想集 富士・うた・想い』を上梓された伊藤さんを甲府に訪ねました。待ち合わせ時、あんまりお若いので違う方かと思つたほど。甲府市内を巡つたあと、お話をうかがいました。

■本を出されたきっかけは？

本を出すなんて、自分のすることではないと思つていた。在職中、研究紀要など沢山書いたが、ある程度は記録に残しておかないと、死後はそのままになつてしまふ。お金を使うなら家族のためにと考えていたので、質素な本をとひそかに思つていた。そのとき教え子の土屋氏から紹介されたのが御社。誠心誠意、親身に対応して頂き、そういう意味でも本を出して本当に良かった。校正などで通信する折々に私の想いを申し上げてきましたが、心から感謝しています。本当にありがとうございます。

■こちらこそ、ありがとうございます。

それにしても、「これでよし」となる

まで大変ですね。これが仕上がつた本、これが最初の本(装丁校正)。私は自書を開く時は完成本ではなくこちら(装丁校正)を開きます。なぜなら、朱が入っているから。どのページを開いても校正した人の想いが伝わってきます。わが歌をこんなにも親身になってみつけて添削してくれた人が世の中にいたんだ。としみじみ思います。本というものは、作者は一人でも、一人の力では出ない。一ページ一ページ、一字一字に作者は元より校正者の想いがこもつていると思う。

■短歌を始めたきっかけは？

朝霧社(長野県松本市)主宰の山村先生を存じ上げるようになったのがきっかけ。山梨県にも短歌結社は幾つかあるが、入つたところでやり遂げようと思ひ、今日まで来た。短歌をずっと続けてこれたのは自らの努力は当然だが多くの人に支えられていたからだと思います。

■歌をつくるときは？

カレンダールの裏等に自由に書き、推敲し、いいかなーと思つたらノートに書き写す。そうして再び推敲し、他の方の歌など読んでみる。すると「こういう言葉・表現があるんだ」「日本語ってこんなにも色彩・内容が豊かなものなんだ」と再発見する。世界に冠たる雅な言葉を大切にしたい。清書して二、三日したら、また推敲。先人の俳句・短歌や詩に、言葉はいっぱいあります。そういう言葉の、文芸のはしぐれに居ることを嬉しく思うし、かたじけなく思う。この道に案内してくれた人に本当に感謝しています。

■歌評の際に心がけていることは？

ただ歌を評するのではなく、歌が詠

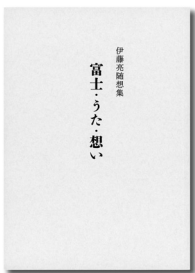
まれた背景に思いを馳せます。信州の作者なら地図を開いて「高い山が見えるのかな、遙々とした野原が見えるのかな」「どんな日を送られているのかな」等と想像すると、批評の言葉が浮かびます。本来、歌評とは「歌の価値判断をすること」だと言われますが、私はまだ非力なので、詠んだ人の立場に立つてその人を使う——すると、作者の心に、その歌が入つていけるのです。

■歌集の反響はいかがですか。

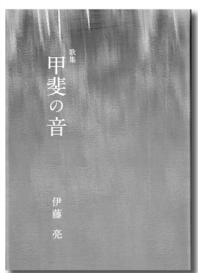
つたない本だけど、皆さんお読みくださつて「この歌がよかつた」とお便りくださるの嬉しい。本当に、涙が出るくらい。どんな本だつて、その人が全力でやつているものだし、本にするというのはいつの事業ですね。

■達筆ですね。

少年の頃から習字が好きで書道の師範位ももつています。山崎方代の歌碑(20基)の揮毫もしました。父も兄もきれいな字を書いた。母は書字が不十分でしたが、若山牧水と同年の生まれだと話したら「ああそう、ああそう」と言つて嬉しそうに寝入つたことも。明治の中ごろの当時、女性は勉強なんてす



▲『伊藤亮随想集 富士・うた・想い』



▲第一歌集『甲斐の音』41年間の歌526首が入集されている。

るもんじやないという時代。もつと字を読めれば世界が広がるのに。と、かわいそうに思つた。

■歌集には、お母様はじめご家族についてのお歌が多いですね。

時事・自然など歌の対象は無限だが、人、それも肉親を詠むと人の心にしみ入る歌が出来易いのではないかと。感情や感動が人間の心の底から湧き出すので。どんな場合でも、いつくしむ心・言葉があれば、いつでも歌は生まれると思う。そして、歌が詠めるというのは、平和であるということだと(戦争を経験)感じます。

■これからは？

元気でいたなら、もう一冊出したい。歌集制作中、何回も手紙をやりとりして、すっかり他人じゃなくなつちやつた。

弱まりし視力の母が注ぎたまふ年祝

ぐ酒の盃に溢れぬ

炎天も夏の風情のひとつぞと農に励

みし父の追憶

喜寿にしてなほ凌雲の志 抱くと叫

ぶ夏空のもと(『甲斐の音』より抜粋)

★歌会の前日、「凝り性でだめだね、今回は自分の歌を作れなかつた。(歌評でいっぱい)締め切りに間に合わなくなつちやつたの。でもお役に立てばと思つて」——人を心から思いやり、大切にしている伊藤さん。お話の途中、「木戸さん、菅さんのことは一生忘れないよ。」と涙をこらえられました。伊藤さんの真心と、最後に握手をしたときの暖かさど力強さ。私も一生忘れません。(菅真理子)

# 投稿作品

※誌面の都合上、投稿作品の掲載は先着300名様までとさせていただきます。何卒ご了承ください。しめきり2015年1月16日(金)まで  
※作品は原稿どおりに掲載しております。

## 短歌

- 1 同窓会嫌な野郎に会ふ前にイイトコ  
ガネかけて参上  
清水英雄(東京都)
- 2 店閉ざす貼り紙紙で止められて斜め  
にあかき夕陽さしをり  
佐々木都(長野県)
- 3 人の力の及ばぬことの多き日々ぼつと  
安らく出雲大社は  
青木日出男(群馬県)
- 4 銃弾にペン一本でたち向ふ強きマララ  
に相応しい賞  
黒澤正行(福島県)
- 5 サツシあけまともに西日入ることも  
旧居ならではの色あやなせり  
安部哲(新潟県)
- 6 杖に書きし墨書は昭和二十年百歳の  
父の富士初登山  
久保和友(滋賀県)
- 7 狭くとも困らんの声この部屋に溢れ  
しことも昔はありき  
北澤実夫(東京都)
- 8 初に聞くクラリネットの吹奏に感極  
まれり老人ホームにて  
今井忠一(東京都)
- 9 林道のコスモスゆるる車窓にて御嶽噴  
火のニュースを聞きぬ  
高須孝(愛知県)
- 10 子を持たぬ吾愛犬を可愛がり親の苦  
勞を知り労いて  
大橋絵代(千葉県)
- 11 土石流未明の山裾飲み込みて未曾有  
の惨状となりたる市街  
桑原謙一(群馬県)
- 12 秋深し亡き親偲び酒を飲み親不孝の  
昔反省  
島口健次(神奈川県)
- 13 老いたれば「いい案配に」と言はるれ  
どその案配が吾には難し  
渡邊美枝子(山梨県)
- 14 武器のなく戦争のなく無駄のなき空  
の下にはたわわなる柿  
篠原三郎(静岡県)
- 15 吾が歳を犬猫曆に創作し金銭ずくの  
末世に息する  
早坂絃司(北海道)
- 16 物干しでもめてわがシャツ手をつなぎ  
比叡おろしの風でダンスする  
藤原昭三(滋賀県)
- 17 棚田今活気漲るその訳は彼岸花見る  
人で溢れる  
濱田イサオ(福岡県)
- 18 四時間の透析つらいと泣く夫の背中  
なでつつ妻大泣す  
濱崎祥子(鹿児島県)
- 19 木枯らしに日毎さびゆく吾が庭の山  
茶花のみが凜と咲きをり  
緑川葉子(福島県)
- 20 離れても共に見上げる皆既月食携帯  
片手話つきぬ音  
喜多千津子(埼玉県)
- 21 我が恩師九十三の誕生日あやかりた  
しと祝う幸わせ  
矢島多恵子(東京都)
- 22 差別なき女子教育を訴たふるマララ  
の受賞われも頷く  
石尾曠師朗(東京都)
- 23 退職後君は踊りに専念すわれはネッ  
トに白き球打つ  
土屋喜雄(山梨県)
- 24 社殿の樹へ二三重にも糸を張る蜘蛛  
のお城か陣どり輝く  
大鳥居牧子(東京都)
- 25 台風の後半に目覚めて虫の音も途絶  
える程の雨の音さく  
田中豊恵(新潟県)
- 26 ほめられた娘の頃のくろかみも白髪  
まざりて師走となりぬ  
佐伯セツ子(香川県)
- 27 月に住むうさぎの搦きたる白き餅食  
ふべてみたしその柔らかなるを  
萬濃その子(神奈川県)
- 28 この姓名と同じ名字の人がいた昔同  
じ姓の人を知っている昔知っている人  
の縁者か  
梅澤鳳舞(埼玉県)
- 29 何年も手入れされない杜の松ゴジラ  
の形して立ち枯れてゆく  
小笠原紗恵子(神奈川県)
- 30 戦いの時代に学びし昭和の子平和を  
願いつ平成に老ゆ  
寒川靖子(香川県)
- 31 初秋の風吹きそめて心霊身染みて男  
気の復活したり  
西山悌三郎(高知県)
- 32 大晦日ふるさとの丘祖母とゆく沈む  
夕陽に手を合わせつつ  
坂元正憲(東京都)
- 33 木蓮の枯葉が風に舞い落つる秋の終  
りをわれに知らしぞ  
小暮昭司(群馬県)
- 34 庭先に生い育ちたるホウズキも秋空  
の中あでやかに立つ  
林玉子(長野県)
- 35 ワイキキの波は大きくて「こわいよー」  
と父に抱きつく孫は3才  
安田優子(北海道)
- 36 運命かな時は流され身の上を同窓会  
で互いに語る  
村岡盛英(群馬県)
- 37 花の座間ひまわりフェスタ故郷を訪れ  
るように夢と希望へ  
五味田幸夫(神奈川県)
- 38 正夢であってほしいと願いつ、うす目  
あければかわらぬ現実  
岩崎令子(大阪府)
- 39 ながき水増えゆく世とぞ言はるるに  
ここだ蜜の甘き水の上  
諸隈桃代(長野県)
- 40 秋刀魚焼く煙立ちゆく彼方には藍よ  
り青き群青の空  
若月理依子(新潟県)
- 41 物忘れ照れて誤魔化す剥げ頭  
関本守(新潟県)
- 42 甘さが目立つ恋の駆け引き  
松田重信(埼玉県)
- 43 九条を守らぬ首相は辞めてくれ  
大江秋月(兵庫県)
- 44 無理にでも立たせてみたい茶柱を  
細川光子(栃木県)
- 45 亡き母のしつけ糸は抜かずおく  
渡部美代子(山形県)
- 46 運動会孫の名前が皆に知れ  
石原岳(群馬県)
- 47 赤とんぼオスプレイよりうまく飛ぶ  
原崇雄(埼玉県)
- 48 いびきまで気にしてくれる連れがいる  
鈴木義雄(福島県)
- 49 少子化を咎めるように柿たわわ  
藤沢健二(千葉県)
- 50 退職後とんと縁ない三ツ揃い  
中嶋秀次郎(埼玉県)
- 51 毎日が日曜だからさぼれない  
丸山芳夫(東京都)
- 52 病院をはしごしているまた元氣  
守屋高雄(岩手県)

## 川柳

- 53 生前のしぐさが不意によみがえる  
藤井碩子(山口県)
- 54 祝いたし意を新たにす終戦日  
栗原黎(群馬県)
- 55 口喧嘩出来る相手の飯を炊く  
奈倉楽甫(愛知県)
- 56 冬山に命とゴミは捨てないで  
山口千鶴子(東京都)
- 57 ピカピカに靴をみがいてわく鬨志  
諸橋文男(新潟県)
- 58 オレオレはわしじゃわしじゃの合言葉  
大久保アヤ子(東京都)
- 59 花咲かぬ老樹小鳥を遊ばせる  
久本にい地(岡山県)
- 60 「アイラヴユー」言ってみたいよ八十爺  
植松與悦(山形県)
- 61 おもてなし器の中に秋が来た  
高松秋良(群馬県)
- 62 ふるさとで勇躍乗った車かな  
五十嵐睦博(新潟県)
- 63 突然テレビの噴火見て戸惑う  
奥那於子(大阪府)
- 64 日本語の秋が始まる柿ひとつ  
奥田音野(香川県)
- 65 実母より義母の方が好きになり  
岩崎政弘(岡山県)
- 66 花に水ぬか床頼む旅途中  
中林恵子(大阪府)
- 67 秋の彩厳しき夏をしまい込む  
後藤すえひろ(福岡県)
- 68 人間をやめると軽い首になる  
戸田美佐緒(埼玉県)
- 69 おせちでき仕舞湯で聞く除夜の鐘  
小山恵美子(大阪府)
- 70 極楽とはこういう事か孫と住む  
竹村穂夫(大阪府)
- 71 一片の雲となりしの秋の蝶  
益永克之(福岡県)

- 72 沖縄に難題ばかり押し付ける  
福地義雄(沖縄県)
- 73 じゃじゃ馬も晴着に負けて七五三  
高橋久仁子(福岡県)
- 74 大胆なおんななほどルージュは赤い  
高柳閑雲(愛知県)
- 75 ジジババも何故か許せるレディガガ  
嶋田征次(東京都)
- 76 磨くより錆るが早い脳の中  
山崎一嘉(愛媛県)
- 77 八十路まで追わる少年兵夢の中  
菅井文男(新潟県)
- 78 その服は似合わないよと秋が言う  
土井洋子(佐賀県)
- 79 三本の矢視界不良で的はずれ  
森恒雄(愛知県)
- 80 病床の友の句に秀作多し  
松尾健二(千葉県)
- 81 老の日々めし風呂ねるその三言葉  
磯山陽吉(東京都)
- 82 延び切れぬ輪ゴムの自由あと少し  
野田明夢(新潟県)
- 83 朝・夕ひざしむれごと旅路かな  
浅沼洋子(神奈川県)

俳句



- 84 蚯蚓鳴く小さきかたち詩型かな  
安木沢修風(新潟県)
- 85 秋の日や孫抱いて平和の夕  
伊勢本順弘(東京都)
- 86 平凡に生きて幸せ秋の暮  
大橋恒次(新潟県)
- 87 なにもかも知り尽したる神は留守  
近藤薫也(千葉県)
- 88 誰も居ぬ冬田に山の影伸びて  
清水勝子(神奈川県)
- 89 台風が連れて戻った放射能  
江口肇(福島県)
- 90 雨あがる即ち照る山走り出す  
小島岳青(新潟県)
- 91 噛み合はぬ夫との会話月祝る  
竹内ハヤ子(埼玉県)
- 92 縁ありて輪の中に居り吾亦紅  
田中美智子(埼玉県)
- 93 俳句する老いの一日常文化の日  
山田楽山(埼玉県)
- 94 年の瀬や喜怒哀楽を振り返る  
橋本世紀男(東京都)
- 95 そぞろ寒む背中合はせの駅の椅子  
堅田秀子(東京都)
- 96 名月や一茎活けて酒酌まな  
上村元義(神奈川県)
- 97 八十は大輪の花秋うらら  
阿部至(埼玉県)
- 98 日暮の刑執行は午後四時に  
加用章勝(千葉県)
- 99 生るるも死ぬも一人や天の川  
山崎吉晴(群馬県)
- 100 突如逢いし名もぬ握手赤まんま  
田島星景子(宮城県)
- 101 秋深し固い握手で来年も  
神作洸江(埼玉県)
- 102 さんま焼く煙ただよふ旅酒場  
古谷力(東京都)
- 103 夜空には秋のページをめくる星  
水落重式(新潟県)
- 104 三山の雲従へて眠りけり  
大谷茂(埼玉県)
- 105 鳳仙花より陸続と鼓笛隊  
川口襄(埼玉県)
- 106 箒音好きで猫寄る落葉掃き  
鈴木岑夫(千葉県)
- 107 サザンカの咲くころ思う旅の宿  
大木和男(東京都)
- 108 赤そばの花美しき味も佳し  
須澤重雄(長野県)

- 109 狛犬のしかと守りし神の留守  
関子利明(兵庫県)
- 110 ほどほどの幸せ手にし根深汁  
武市愛子(大阪府)
- 111 赤とんぼ余生の続くかぎりかな  
福岡悟(東京都)
- 112 月浴びてカオス深まる墳墓かな  
浦橋克行(兵庫県)
- 113 仏壇に秋果を供え念じをり  
西條公雄(埼玉県)
- 114 吟醸の酒を願いつ杜氏唄  
井上氣海(広島県)
- 115 七十路の七たび迎ふ十三夜  
有坂馨園(福島県)
- 116 組体操天つべんの子空高し  
田野倉訓郎(東京都)
- 117 台風の過ぎ去る朝や月白し  
関原幸子(東京都)
- 118 秋日濃しキクといふ名の母思ふ  
青木ケン子(埼玉県)
- 119 酔美よう病まずに逝きし父のこと  
松涛千鶴子(東京都)
- 120 スマホ手に友と競うや秋の句を  
松尾らん(東京都)
- 121 凧の一号大きく胸張りぬ  
油谷郷史(兵庫県)
- 122 内祝にひ孫の量の今年米  
炭崎博(滋賀県)
- 123 ところてん茶店の喉を湿しけり  
千代田俳徒(東京都)
- 124 温め酒地鶏地魚地の野菜  
吉里ひとみ(東京都)
- 125 ご開帳次は合へなき秋の天  
穂積光子(東京都)
- 126 奥入瀬の瀬音色付く秋の滝  
片山茂子(埼玉県)
- 127 舌抜くと論す父居る星月夜  
緑川禎男(埼玉県)

- 128 官兵衛の案山子の笑みに思案あり  
寺内 侘(埼玉県)
- 129 錆び色の皆既月食研ぐみ空  
有田裕子(北海道)
- 130 真つ向に初冠雪や富士の山  
佐野和彦(静岡県)
- 131 太陽の恵みとち込め布団干す  
井原 穉子(東京都)
- 132 天高し健康体操自分流  
檜山とり子(東京都)
- 133 対岸に家建つ音や芦の風  
三津木俊幸(千葉県)
- 134 初冠雪富士へ向ひて深呼吸  
渡邊碧海(静岡県)
- 135 堰越ゆる時は急ぎて秋の水  
湯浅芳郎(岡山県)
- 136 万歩計せいせい二千歩小春風  
池田岬(埼玉県)
- 137 幼子の老の手を引く運動会  
吉村充治(埼玉県)
- 138 父に似し兄とくつろぐ秋の昼  
駒場京子(神奈川県)
- 139 切株の芯のくれない神無月  
清まさこ(静岡県)
- 140 鳥声の畑に煌めく露の玉  
望月喜美子(静岡県)
- 141 池の面を影が先行く赤蜻蛉  
高崎登喜子(東京都)
- 142 招ねかざる天変地異や秋惜しむ  
大内泰子(東京都)
- 143 冷まじや石を蹴り蹴り下校の子  
天野輝子(東京都)
- 144 秋桜仮設の窓に遊びをり  
小野正光(宮城県)
- 145 送り火に照らされてる子の瞳  
浅野信廣(宮城県)
- 146 緒絶橋欄干渡る秋の虹  
阿部澄江(宮城県)
- 
- 147 人生の余白まだあり初暦  
阿部徳夫(宮城県)
- 148 滝壺でもみくちやになるネズミかな  
白戸麻奈(東京都)
- 149 赤銅に食されてゆく後の月  
津田忠彦(岡山県)
- 150 掃かず踏まず金木犀のこぼれ花  
堀木和子(大阪府)
- 151 一村はひそと小春のつむなな  
重原昇(新潟県)
- 152 声繁き女性軍団秋の旅  
藤井春三(埼玉県)
- 153 暗黙の定席のある炬燵かな  
長峰正晴(千葉県)
- 154 白壁の日暮鶏頭紅々と  
小泉和明(茨城県)
- 155 落葉をひとつ眺めてひと休み  
木下精(大阪府)
- 156 平然と己が余命を白木樫  
岩村昇(神奈川県)
- 157 マジックと演歌のコラボ文化の日  
布目雅之(東京都)
- 158 五つ珠妻もこだわり文化の日  
田中昶(鳥取県)
- 159 菊人形秘めたる力ありにけり  
川嶋法子(東京都)
- 160 狒犬の阿吽と座り木の実降る  
神一男(静岡県)
- 161 垣間見し翁の影や実紫  
小澤田梨(静岡県)
- 162 天満宮狒犬守り秋の闇  
杉村美保子(岩手県)
- 163 秋風や津波に耐へし賢治の碑  
宮崎敏昭(埼玉県)
- 164 山独活や母の手料理懐しむ  
湯浅暉子(石川県)
- 165 零余子飯炊き亡き母を偲びけり  
佐瀬千恵(神奈川県)
- 
- 166 乗り継ぎの駅に端布の小座布団  
岡村君枝(茨城県)
- 167 従兄弟者の芋の面取り娘の上手  
二瓶那枝(埼玉県)
- 168 さわやかに靴のかた減り束むく  
阿部幸子(宮城県)
- 169 いが栗に童の笑顔ほころびて  
鈴木みえ(長野県)
- 170 実りたる稲田を背に道祖神  
古川正栄(千葉県)
- 171 雲と行く遊子へ釣瓶落しかな  
澤雅子(大阪府)
- 172 苦難越え金婚の日の秋夕焼  
杉原明子(静岡県)
- 173 冬星を指で辿りて紡ぐ糸  
山本理香(大阪府)
- 174 風そよと金木犀に頬やさし  
中田文子(大阪府)
- 175 コスモスの人恋しさに又揺れし  
磯部力(新潟県)
- 176 しばし目をなしたすきの泡立草  
井田由利子(宮城県)
- 177 秋暑し恐山湖の夢心地  
福田和子(東京都)
- 178 ひたすらに生くべく走り木葉髪  
塚田寿子(埼玉県)
- 179 針箱と母の背中の夜長の灯  
渡辺嘉幸(東京都)
- 180 夕雁の光となりて時へと  
菅原茂子(宮城県)
- 181 鹿の聲聞きつつ啜る茶粥かな  
野木宗信(奈良県)
- 182 どちらかがいつかは一人秋深し  
宮本幸子(埼玉県)
- 183 穉伸ぶ保育園児の散歩道  
道給一恵(埼玉県)
- 184 秋風にふかれて歩く散歩道  
青木里恵子(群馬県)
- 
- 185 御嶽の地底に呪ひ紅葉道  
長野操(埼玉県)
- 186 覚め易くなりて夜長を持て余す  
大阿久雅子(埼玉県)
- 187 慈雨もまた恐雨となりて夏悼む  
中山日出子(大阪府)
- 188 落葉焚きしばし詩画の世となりぬ  
鷺谷浅子(茨城県)
- 189 こほろぎの恋する音色きりもなし  
堀井醉人(茨城県)
- 190 小鳥来る今朝はコーヒー入れやうか  
秋谷静子(茨城県)
- 191 水澄みて鯉たわむるや万華鏡  
野村牟人(東京都)
- 192 名月や白砂の庭に塔の影  
山本直子(大阪府)
- 193 鎮魂の沖を見つめて石落咲きぬ  
鈴木蝶次(宮城県)
- 194 旅人なく色無き風や塩の道  
青木涼子(埼玉県)
- 195 束ねても解いても淋しい秋桜  
中嶋清子(佐賀県)
- 196 水使ふ女の声や秋深む  
早矢仕邦夫(愛知県)
- 197 空知野の恵みあまねし稲穂波  
柴田恵美子(北海道)
- 198 邯鄲や健康寿命たふ造語  
今井勝子(新潟県)
- 199 ポスト迄歩巾ひろげて菊日和  
竹本芙美子(新潟県)
- 200 鴟高音形相変はる鬼瓦  
西川孝子(奈良県)
- 201 健やかか他は望まざり石路の花  
村山徳英(埼玉県)
- 202 小鳥くる煙突太き喫茶店  
平山千江(岩手県)
- 203 晩鐘や熟柿くはへて飛ぶ鴉  
鈴木清子(埼玉県)



- 204 台風の中や木の葉の雀かな  
坪田勝秀(鹿児島県)
- 205 伴侶チエ口駅へと運ぶ秋本番  
居原田連星(大阪府)
- 206 今生に余白いくばく残り柿  
増本和子(大阪府)
- 207 散りてなほその色褪せぬ冬紅葉  
根田明(神奈川県)
- 208 十挽げば十の顔して八頭  
井上静夫(栃木県)
- 209 図書館へ齢の泉汲みに行く  
内河邦久(東京都)
- 210 からくりの糸引き競う秋祭り  
中村和弘(愛知県)
- 211 林檎売る一つ一つにバーコード  
木村貞恵(静岡県)
- 212 ゆるしたき心も有りて梨をむく  
浅海和代(東京都)
- 213 雪を掻く越の女のほてり顔  
長谷川ただし(東京都)
- 214 雨音に遠のく記憶乱れ萩  
木田亜津子(兵庫県)
- 215 家持を思わすモネのかさざき展  
森俊彦(神奈川県)
- 216 金木犀音なく零れ生家跡  
浜田はるみ(埼玉県)
- 217 遠きや胸焦がしたる烏瓜  
山田富朗(埼玉県)
- 218 なみなみと婚約の子に今年酒  
箕裕紀子(滋賀県)
- 219 紙のごと薄き人生年の暮  
高杉杜詩花(北海道)
- 220 草原に夕日照りはゆ草紅葉  
田中恵美子(山形県)
- 221 小春日や猫長々と上がり口  
小林七重(新潟県)
- 222 溝萩の群れたる庭にまだ刈らず  
滝沢敬子(東京都)
- 223 顔のなきお地蔵様や実むらさき  
星一子(神奈川県)
- 224 秘佛かや揺れて色さす秋海棠  
平野貴美(東京都)
- 225 人間の暮らし豊かにほととぎす  
小形祐一(埼玉県)
- 226 落葉焚き尻あたためる農夫かな  
齊藤安弘(神奈川県)
- 227 親子能「石橋」舞うや秋高し  
山田幸代(兵庫県)
- 228 いちじくの枝切り落とし来夏待つ  
針生清(千葉県)
- 229 谷川の水透き通る鬼胡桃  
成田節子(山形県)
- 230 豪雨去り温き日射しに草紅葉  
木村舩(山形県)
- 231 初もみぢ播磨坂いま輝ける  
増田公代(東京都)
- 232 女手といふ母の掌や天の川  
山崎鶴恵(鹿児島県)
- 233 女孫ひげ爺変身ハロウィン  
柳澤京子(宮城県)
- 234 木守柿世を憂いつつ孤老逝く  
望月よし江(埼玉県)
- 235 栗拾ひ毬にさされし指の先  
鈴木美咲子(山形県)
- 236 右あがりの癖字そのまま賀状来る  
仁藤ひろじ(埼玉県)
- 237 寒満月音なき家にもどりけり  
金子範子(高知県)
- 238 あの空へ我もいつかは鳥渡る  
山岸伊久雄(東京都)
- 239 ナイスイン笑顔はじけて秋爛漫  
高橋まさ子(宮城県)
- 240 常夏の文明発祥の地の遺跡かな  
長野光康(神奈川県)
- 241 神の手の首のシヨバン秋の夜  
邑橋節夫(兵庫県)
- 242 初焼き今日の一日の終りけり  
石井登(大阪府)
- 243 物忘れ老の一芸山粧ふ  
宇田川正雄(埼玉県)
- 244 病んでみてコスモス親しくなりにけり  
小山羊子(新潟県)
- 245 彼岸花まだ萌えぬ芽は泉下から  
中村康浩(福岡県)
- 246 石舞台見ゆる段畑柿日和  
永井俊樹(兵庫県)
- 247 身に入むやケイタイに残る「ありが  
とう」  
黒岩正子(埼玉県)
- 248 町じゅうに花火の合図秋祭り  
石川郁子(埼玉県)
- 249 きたぐにの太陽いつばいひなたほこ  
菊池シュン(青森県)
- 250 充分に戦ぎ日を受く枯すすき  
大窪美代子(大阪府)
- 251 真つ直に走るものなし山の蟻  
矢倉眞子(大阪府)
- 252 立冬の瀬音昂ぶり月登る  
田野井一夫(栃木県)
- 253 狛犬の背に降りかかる紅葉かな  
松前邦広(千葉県)
- 254 庭草の茂る小庭や石路の花  
春口蓮男(静岡県)
- 255 地主似の案山子すつくと睨みおり  
林多み子(群馬県)
- 256 おかげさま五文字の中の夏に生き  
乾久子(滋賀県)
- 257 乳牛の乳の張りたる文化の日  
佐藤信(神奈川県)
- 258 三面川心してゆけ上る鮭  
岩田桂太(新潟県)
- 259 雨唄ふ紅葉微笑む祝傘寿  
角谷不一(新潟県)

## 10月号の 心に残った作品

「投稿作品で心に残ったものは？」の問いに、たくさんのお返事をお寄せ頂きありがとうございます。また、その中で特に多くの評価を集めた作品と、それを選んだ理由の一部をご紹介します。

### ◎川柳部門

13 戦争の好きな首相で困ります

大江秋月(兵庫県)



大江秋月様

・「秘密保護法」「集団的自衛権」の閣議決定、安倍首相に是正に対する痛烈な皮肉 江口肇(福島県)・わかり易いそして手きびしい 久保和友(滋賀県)・集団的自衛権を閣議決定で押し通すなんて無茶である。安保改定の祖父(岸伸介)とそっくりである 中嶋秀次郎(埼玉県)・よくぞはつきり言ってくれました 栗原黎(群馬県)・どこ迄解釈を広げるかと先が案じられます 奥那子(大阪府)

### 【自句自解】

安倍晋三は小泉政権の官房長官の要職に就いた頃からめきめきと腕を上げ小泉の手足として政界に頭角を現わした。総選挙で衆参議員の過半数をとると、独裁政権を夢見て不法にも憲法を自己の思う儘に解釈して、集団的自衛

権の行使容認、秘密保護法の制定、軍需産業の振興、原発推進、年金医療の後退等々、軍国国家と格差社会に全力を傾注している。我々国民は戦争国家より、貧しい食事で家族揃って頂く平和国家の方が嬉しい。

◎俳句部門

146 ビリの子の無心の走り運動会

長峰正晴(千葉県)



長峰正晴様

・息子が何時もビリだったので一生懸命走っていることだけをほめていたことを思い出しました。親ならではの句。情深さを感じました 堅田秀子(東京都)・運動会さきらい、ちびだから。人数たらずでクラス一番の子と走る。私はスタートで一番でも追いこされてくやしいことしきり 佐伯セツ子(香川県)・ビリの子、素直な句意に共感 堀井酔人(茨城県)・自分も運動会大嫌いの少年でした 長谷川ただし(東京都)・「子供の一心になったがんばり」心を打たれ涙ぐんだ 森俊彦(神奈川県)・運動会の徒競走の景のビリの子に焦点をあて、その子に対する作者のやさしさを感ずる。中七の措辞がよい 山田富朗(埼玉県)・ビリの子の頑張りに拍手です。無心だったのだろうか、観ている側には心の中は見えませんが 星一子(神奈川県)・目指すはゴールのみの様子をよく表わしている 石川郁子(埼玉県) 生ま

れつき足のはこびの悪い子が真剣に走る姿、村中のがんばれの声に見ごとゴール村中の大拍手、涙ができました 林多美子(群馬県)

【自句自解】

たまたま近くの幼稚園の運動会を見ることがあった。幼稚園の運動会のかっこは、園児ばかりでなく、親・祖母も盛り上がる競技。その大声援の中、びりになっても、前との距離があいても、前を向いてひたむきに走った子がいた。みんなが「がんばれ、がんばれ」と応援する中、しっかりとゴールに飛び込んだ。少し足の悪い子だっただけに余計感ずるものがあつた。

◎短歌部門

273 台風になんちさられ夏野菜泣くに  
なかれぬ後しまつなり

佐伯セツ子(香川県)



佐伯セツ子様

・台風にも私も白菜、大根流れました。自然には勝てません 清まさじ(静岡県)・今年全国的に雨(水)に風にと大変でしたね 杉村美保子(岩手県)・心情を察します 田中豊恵(新潟県)・台風被害の中、辛さの中でしみじみと綴る我慢を感じる 坂元正憲(東京都)

【自句自解】

台風が少ない県ですが、今年夏に二、三日荒れました。でも少し待てば又植え時がめぐりて自然のあり方にあ

りがたく思っています。亡母が作ったのをほじくり出して、自分流に野菜の種を蒔き、出来ばえを楽しんでいます。元気な頃に母が遊びに来たのでゆがいて出したらやわらかくておいしいと喜んでくれた姿が今も目に浮かびます。この家に住んで四十年近くに成りますが、楽しんで句や歌に表わしています。選んで頂き有難う御座居ました。

《川柳》

14 ゴキブリを叩きその手で写経する

久本にい地(岡山県)

・人間は残酷。されども祈るやさしさ。人を殺めても祈る人間 松田重信(埼玉県)・人生の機微を端的に又手によつて表現、清濁併せてゆきましょう 津田忠彦(岡山県)・実践歎異抄 奈倉楽甫(愛知県)・私にとつてはとてもできないが「写経」がおもしろいです 濱崎祥子(鹿児島県)

《俳句》

110 送り火の消えて一人にもどりけり

竹内ハヤ子(埼玉県)

・盆行事の気持ちがよく表現されている 近藤薫也(千葉県)・子供達は遠く離れて暮らしている。一人先祖を守る者が送り火の消えた闇に一人たたくむ：映画のワンシーンです 山崎吉晴(群馬県)・色々な思いが読後広がります。寂しさ、楽しい思い出。俳句のすばらしさです 湯浅芳郎(岡山県)・淋しさが共感できる。明日もひとりなんです、多分 木下精(大阪府)・送った方がもしかして伴侶ならば淋しさも一人でしょうね 古川正栄(千葉県)・哀しい 竹村穂夫(大阪府)・明るい句を選び

うか随分と迷ったが最後はこれに決定!! 仁藤ひろじ(埼玉県)・送り火の消えて独りになったさびしさがよく理解出来ます 春口蓮男(静岡県)

《短歌》

300 受話機から合わせたい彼女いるという遅咲きの子にめぐり来る春

岩崎令子(大阪府)

・よかつたアと心からよろこぶ姿がわかつていい 佐々木都(長野県)・母の心情が素直に叙されている 田中昶(鳥取県)

《他にも》

19 里帰り母の訛りに安堵する

諸橋文男(新潟県)

32 どなたかなさぐり入れつつ同窓会

奥那於子(大阪府)

68 反戦の声なき声や蟻の列

高崎登喜子(東京都)

78 悪童も天使の顔に三尺寝

山崎吉晴(群馬県)

83 母の色祖母の色なる桐の花

佐藤正子(福島県)

132 父も子も笑顔はじける水遊び

川嶋法子(東京都)

151 黙禱をして炎天の棒になる

北村純一(神奈川県)

197 旧姓で呼ばれ振り向く夏祭り

中野勝子(鹿児島県)

264 母に似た声が外から聞こえをりもしやもしやと裸足で飛び出す

阿部澄江(宮城県)

270 決勝打たれてしばしうづくまる背番号1に西日輝く

黒澤正行(福島県)

※今後もふるってご投稿をお願いいたします!

第38回目の今回は、村上澄子さまよりバトンを託された三ツ木宗一さま。  
大変な入院期間中においても、目の前に見える根津神社にまつわる歴史を調べるという時間の使い方をされた著者。  
いろいろな心持を回避、緩和する、人に備わった賢明さを感じます。

●お客様の「リレーエッセイ」

## 入院中雑記

三ツ木宗一

(東京都・北区)

訊問されて悪事を暴かれるのを避けようとする政府高官や、不都合なことを秘匿しようとする悪徳議員は別として、ことさら善男善女で無くとも私たちは普通入院などしたくないものです。  
「病は気から」などと言われますが、気力だけで癌を克服するのは殆ど不可能です。  
はからずも食道および頸部の癌と診断され、然る後に千駄木の日本医大病院に入院いたしました。

その入院に際して、当時地元〇病院から順天堂への紹介状と別に添付書を頂き順天堂を訪ねたのですが、順天堂は謝絶して日本医大病院に入院したのです。この辺りの経緯は別にお話ししようと思いますが、放射線の設備等では日本医大がより充実している、との助言があつてのことです。

この医大病院は病棟の新設中で入院したときには、本館A棟、B棟、C棟とあり、さらに東棟と東館が別にありました。

私が入院したのはA棟六階、病室は七階まであり、その上、つまり屋上は物干し場となつておりました。

C棟の真向いが根津神社です。

B棟からC棟へは公道の上が渡り廊下となつており、その廊下の窓からも、A棟の屋上からも根津神社を望みできる位置関係です。

放射線を受けるのは、他から隔離されたC棟の地下二階です。

A棟六階からC棟地下二階まで行く訳ですが、A棟は坂の上、その先は本郷通り、つまり旧日光御成道で、C棟の先は千駄木の通りを経て、その先は不忍の池です。

かなりの高低差があるのでA棟一階がC棟三階です。しかもその途中

にB棟があるので迷路のように入り組んでおります。  
病院に入院するのは、物見遊山で温泉宿に泊まるわけでも、仕事に追われてビジネスホテルに泊まるのとは全く違います。

入院中の辛苦を述べたところで益あるとは思いませんので、ここでは入院中の余暇に調べた根津神社について少々述べたいと思います。

伝承によれば極めて古く、大和武尊が東征の折、素佐之男命を祀つた、とされています。

大和武尊は景行天皇の第三皇子。

景行天皇は、神武天皇から数えて第十二代、とすると、ざつと二千四百年前のこととなります。

これは、日本書紀や続日本紀によるもので、さしたる正しさは望めませんが、ざつと下つて徳川時代になると、割合正確な記録が残されております。

この秋、現在のところに安置されたのは天正十年（一五八二年）徳川五代將軍綱吉の養嗣子家宣の産土神とされました。

家宣は綱吉の養子となるわけですが、幼名は虎松、甲府の綱重の子です。

ここに、その松平の屋敷があり、そこへ移されたもので、それまではもう少し駒込寄りに在つたものです。

昨今では、つつじによつて遍く知られるところですが、その一隅に胞衣塚があります。

胞衣とは胎衣とも記され、新生児出生の際排出された不要のものです。  
先の、九月二十二日の句会に

「胞衣塚や根津権現のつくつくし」

という村上澄子さんの句がありました。

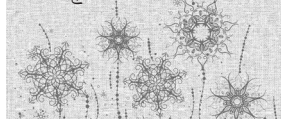
前に述べたこと等をわきまえた人が居たとすれば、この句はもつと高点を得られたことでしょう。

なお、根津権現はいわば古称、現今では根津神社、権現と神社の差異も、いずれ何かの折に申し述べる時がある、と思つております。



前回のアンケート

Q.今年いちばん嬉しかったことは何ですか？  
紙幅の関係上、すべてのお答えを掲載できませんことをお詫び申し上げます。



★文芸・出版

- ・新聞の読者文芸に投稿しており、六十余句掲句、内特選七句  
大橋恒次(新潟県)
- ・黒猫になりて抱かれし春の夢が「夢二俳句大賞」の秀逸に選ばれました  
橋本世紀男(東京都)
- ・喜怒哀楽に作品をのせていただいた  
渡部美代子(山形県)
- ・新聞二紙に短歌と俳句が同じ日にトップ入選したとき  
黒澤正行(福島県)
- ・東日本大震災原発放射能被爆禍三年間の被爆俳句を八十句まとめ得たこと  
有坂馨園(福島県)
- ・町主催の文化教養講座にて、川柳の講座を務めた事  
中嶋秀次郎(埼玉県)
- ・主宰している俳句の会が月一度で百回を迎えた  
井原毬子(東京都)
- ・川柳を友人と続けられたこと  
藤井碩子(山口県)
- ・地元「川柳・俳句・詩」の文芸賞を創設することができました  
湯浅芳郎(岡山県)
- ・永年遠ざかっていた詩吟大会に出られた  
吉村充治(埼玉県)

- ・文化共会で「数字で見たわがふるさと日吉台」を刊行  
藤原昭三(滋賀県)
- ・自分史をそれぞれの方に贈り大変な反響がありました  
藤井春三(埼玉県)
- ・作句を新聞などに応募して紙面に掲載された瞬間  
諸橋文男(新潟県)
- ・鬼灯賞を頂いた事  
小澤川梨(静岡県)
- ・所属している俳句の結社へ応募した作品が優秀賞を頂いた事  
澤雅子(大阪府)
- ・伊藤園のおくいお茶の新俳句大賞になったこと  
中田文子(大阪府)
- ・甥が短歌を始めて私が作品を見てあげていますが彼が新聞の短歌欄で入選した  
萬濃その子(神奈川県)
- ・NHK能美大会「雑詠」で特選と北國新聞社社長賞を頂いた  
小山恵美子(大阪府)
- ・市の俳句大会で市長賞に選ばれた事  
早矢仕邦夫(愛知県)
- ・俳句が縁で地元の小学校と交流が深くなった事  
福地義雄(沖縄県)
- ・句集「銀座四丁目」を上梓したこと  
長谷川ただし(東京都)
- ・自分の「一生の記録」出版  
森俊彦(神奈川県)
- ・友に誘われ俳句に出会った事  
滝沢敬子(東京都)
- ・結社誌社「童子」の童子大賞をいただいた  
佐藤信(神奈川県)
- ★旅行  
・数年前スペイン旅行に参加した方々と琵琶湖一周の旅をした  
浅野信廣(宮城県)

- ・青春十八キップで好きな城めぐり  
江口肇(福島県)
- ・広島へ息子と二人での旅  
堅田秀子(東京都)
- ・家内と最後のハワイに行けた  
浦橋克行(兵庫県)
- ・飛騨の千光寺へ円空仏を訪ねた  
吉里ひとみ(東京都)
- ・小豆島でハートの形のオリブの葉を見つけた  
山本理香(大阪府)
- ・萩へ吟行に行つていろいろ見聞出来た  
渡辺嘉幸(東京都)
- ・東京スカイツリー旅行  
青木里恵子(群馬県)
- ・六甲山に登頂した  
居原田連星(大阪府)
- ・カナダのイエローナイフで三夜連続オーロラに出会えた  
小林七重(新潟県)
- ・京都、奈良の里を時間をかけて夫婦で歩いた  
齊藤安弘(神奈川県)
- ★家族  
・娘が外国の大学で講師になれた事  
松尾らん(東京都)
- ・三男夫婦から妊娠の知らせ  
三津木俊幸(千葉県)
- ・亡夫の一〇六年の薬局を長男夫婦がついでくれたこと  
高須孝(愛知県)
- ・旅の宿で息子、娘の家族一同で元旦の朝を迎えられたこと  
大内泰子(東京都)
- ・一人娘が無事還暦を迎えた  
阿部徳夫(宮城県)
- ・家を新築し息子夫婦孫と家族がふえました  
大鳥居牧子(東京都)

- ・元気な叔母さんに(九十八才)逢えたこと  
田中豊恵(新潟県)
- ・アメリカに住む姉の看病を一ヶ月心置きなく行なえたこと  
音喜多千津子(埼玉県)
- ・娘が大きな病気を乗り越えた事  
奥那於子(大阪府)
- ・実姉の卒寿祝い  
長野操(埼玉県)
- ・離婚していた末娘が再婚したこと  
村山徳英(埼玉県)
- ・金婚式を迎え老夫婦乾杯した  
菅井文男(新潟県)
- ・長男の結婚が決まったこと  
寛裕紀子(滋賀県)
- ・父の五十回忌を兄妹集いますませることができた  
中村康浩(福岡県)
- ★孫  
・孫が結婚したこと  
岡子利明(兵庫県)
- ・小五の孫がホームステイで韓国に行くこと遅く成長した  
布目雅之(東京都)
- ・孫(一才八ヶ月)の運動会を見て涙を流しながら笑いこぼる良き日でした  
川嶋法子(東京都)
- ・初孫が大学入試を突破したことです。入学式に同行しました  
今井勝子(新潟県)
- ・3才になった孫が煎茶のおけいこをしたと言いだし、8月からおけいこしていること  
高橋久仁子(福岡県)
- ・孫がサッカー東京代表に選ばれドイツに遠征できたこと  
内河邦久(東京都)
- ・名月に手を合す「曾孫の仕草」自然に感謝する人間になるようにと祈る心のごびです  
木村舂(山形県)

# A Q U E S T I O N N A I R E

・孫娘の就職が決定した

邑橋節夫(兵庫県)

・初孫の誕生

長峰正晴(千葉県)

・ひ孫一号誕生

炭崎博(滋賀県)

## ★健康

・足を痛めて知った歩ける喜び

田中美智子(埼玉県)

・胃癌の手術後、5年が過ぎ、医師より無罪放免と言われた

美濃部紘三(新潟県)

・定期健診にて特に問題なしの結果を受けた

西條公雄(埼玉県)

・ガンがおちついている事

穂積光子(東京都)

・白内障手術し世の中が明るくなりました

有田裕子(北海道)

・健康で一年を送れた

佐野和彦(静岡県)

・脳出血で倒れた夫が全快し又東京迄車を運転して行けた

渡邊美枝子(山梨県)

・平均寿命まで生きてきて今年も恙なく過ごせた

久本に地(岡山県)

・元気で傘寿を迎えられた

北岡保興(愛知県)

・元気で喜寿を迎えることができたこと。丈夫な体に生んでくれた親に感謝の念で一杯

山田富朗(埼玉県)

・一度も病院に行かなかったこと。あと二ヶ月頑張つて元気にいたい

小山羊子(新潟県)

## ★趣味

・三十余年つづいたひとつのつどいが評価された

佐々木都(長野県)

・初めての本格オペラ鑑賞

加用章勝(千葉県)

・プランターでいちご23粒収穫できた

古谷力(東京都)



・小生作詩の校歌が採用された

小野正光(宮城県)

・ゴルフコンペで優勝

原崇雄(埼玉県)

・芹沢光治良の『人間の運命』を読した

緑川禎男(埼玉県)

・寒じめホーレン草が一斉に芽を出し毎朝眺めるのがうれしい日々

阿部幸子(宮城県)

・新曲が出る事でうす

堀井酔人(茨城県)

・ダンスに参加出来た

鈴木美咲子(山形県)

・元気で農業に俳句、囲碁、民謡、等に励めた事

山岸伊久雄(東京都)

## ★その他

・朝の光を浴びた時。逆に言えば、つまり朝寝坊、といふことですね

安木沢修風(新潟県)

・五十年間片思いの彼女とお会いしました

山崎吉晴(群馬県)

・私の書いた「南無阿弥陀仏」の文字を彫つた墓を作ったこと

水落重式(新潟県)

・人生航路で困つた時に助けてくれる友・知人の多くいてくれた事

須澤重雄(長野県)

・定年の素晴らしき世界。天が時を与えてくれた

福岡悟(東京都)

・広島港花火大会で打上げの一番近い場所の花火の迫力に感動した

井上氣海(広島県)

・独居していても多数の方々とお会いしたこと

田野倉訓郎(東京都)

・遠くにある家の墓をすぐ近くの所に改葬できた事

関原幸子(東京都)

・人手に渡つていた我家の昔父が作らせたシャンデリアがそのままあつた事

今井忠一(東京都)

・「憲法九条」がノーベル平和賞候補の話題となつたこと

篠原三郎(静岡県)

・台風前に稲刈りをした事

清まさし(静岡県)

・私が担任をしている2年1(愛)組が体育祭で総合優勝をしたこと

阿部澄江(宮城県)

・神仏、人々のお蔭で九死に一生を得、後遺症なく生かされています

津田忠彦(岡山県)

・後輩が仕事帰りに人を呼んで飲みに誘ってくれる

木下精(大阪府)

・米寿の祝賀(初ひ孫より花束うける)

田中昶(鳥取県)

・永年計画していたバスルームのリフォームをした

高松秋良(群馬県)

・遠野まつりが天候に恵まれ八幡様と合同で開催され観客が多かつたこと

杉村美保子(岩手県)

・三陸地方の被災地を訪問できた

宮崎敏昭(埼玉県)

・当院のみの園遊会にオシャレをして出席できたこと

湯浅暉子(石川県)

・大雪に耐えて実をつけた桃の収穫

土屋喜雄(山梨県)

・喜寿のクラス会が出来たこと

岩崎政弘(岡山県)

・突然の連絡にもかかわらず再会した同級生の歓迎

小林恵子(大阪府)

・スーパームーン、月食を見れたこと

中山日出子(大阪府)

・教え子達の同窓の集いに二十五年振りに参加して皆んなの元気に会えた

後藤すえひろ(福岡県)

・他県に転居して夫の介護をしつつ無事に一年を迎えたこと

大阿久雅子(埼玉県)

・私の作詞による、そうだ、その意気の演歌が通信カラオケに配信されたこと

鈴木蝶次(宮城県)

・兎も角駄作でも出版できましたこと

新堀鉄朗(東京都)

・ノーベル賞受賞。特に中村修二教授の受賞

寒川靖子(香川県)

・テニス界での錦織選手活躍

益永克之(福岡県)

・小学校の御近所級友と半世紀以上ぶりに再会したこと

街より子(埼玉県)

・つがなく職を終えられたこと

坪田勝秀(鹿児島県)

・引越して千葉から持ってきた著書と風蘭が三年ぶりで又花をつけた

増本和子(大阪府)

・八十八才になり区役所から子、孫まで皆に祝つて頂いたことです

浅海和代(東京都)

・一日の中に何かしらの発見があることが一番の喜び

浜田はるみ(埼玉県)

・塚田さんの紹介で喜怒哀楽を知つたこと

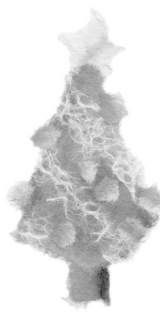
小形祐一(埼玉県)

・母の九十五才の誕生日ホテルでお祝い出来た

山田幸代(兵庫県)

・「爽樹」の研修旅行で木戸さんとお話できました

一瀬正子(埼玉県)



## 「送料ご負担に関するお願い」への声

前号で、「喜怒哀楽」の送料ご負担のご協力をお願いしましたところ、多くの励ましのお言葉を頂戴いたしました。一部をご紹介します。

●「送料ご負担」貴社だいぶ恐縮しているようですが、ぜひ送金させてください。それにしても心やさしい会社です。

●この厳しい折に10年間も費用無料で頑張ってくださいました。これからもよろしく。

●喜怒哀楽を毎回いただいているいつも心苦しく思っていたのですが、来年より些少ながら送料を取って下さる由、良かったとうれしく存じております。

●送料を私どもが負担するのは当然です。これで気持ちがラクになりました。

●とにかくにも続けて発信してください。苦勞を察します。継続は宝なり。了解いたしました。

●送料負担の記事がありました。広告もなく慈善事業でもないのですからコストや送料の負担は当然だと思います。御紙に価値を認めず離れる人があっても致し方ないこと。

●後記いつも読んでいます。今回の提案は遅い位です。これだけ充実した内容は当然有料。郵便料だけで大丈夫ですか？実は心配していたのです。ぜひ続けてほしいので、赤字は覚悟と思えますがよろしくね。

「送料有料は残念です」とのお声も3名の方からいただきましたが、皆さまのあたたかいお言葉、本当に有り難く受け止めさせていただきました。応援くださる皆さまのため、次号からは、ますます充実した鶴首される「喜怒哀楽」をお届けいたします。来たる2015年も、ぜひご一緒にお楽しみくださいますよう！  
※送料のご入金に関しては、別紙チラシ（緑色の紙）をご参照ください。

## 新潟ぶらり

### ★山田花作の横顔2 子の語る花作

新聞記者、そして歌人としての活躍。華々しい経歴に、なんとなく近寄り難い人物の空気を感じていたが、遺歌集『山田花作歌集』の跋文を読んで印象が変わった。跋文の書き手は、花作の嗣子である又一氏。

父は死ぬ十年程前、大患を病んでからは（中略）吾々が學校から歸つて来るのを心待ちに待つてゐて、下らん話でも面白さうに聞いてくれた。（中略）その賑やかな笑ひ聲を聞くと私達の苦勞もフツ飛ぶ位嬉しく思つたものだつた

父も所謂仙人めいた所があつて相当世話のやける方であつた。第一に時計の見方を知らない。汽車電車などの切符が買へない。買物は何一つ出来ない

花作の人間らしい魅力が伝わる。というより、新聞記者が、こんな状態で本当に活躍していたのかと疑わしくなる。しかし、続く一文――。

父は飽くまで立派な新聞記者であり、その最期も亦見事なものであつたと思ふ。（中略）死ぬ十日程前からは流石に疲労の甚だしきもの

があり、苦しうにして少し書いては休み、又筆を進めては倒れ、私達も身體が第一だから充分休養するやうにと奨めたが聞かず、やはり毎日社説を書いては出していた。

記者として、人生を全うしたのだ。享年五十八歳。死の五日前に書いた記事が絶筆となつたという。

遺歌集『山田花作歌集』は没後七年に公刊。与謝野晶子が選をし、「序にかへて」として歌を寄稿している。そのうちの一首に目がとまった。

亡き後の集悲しけれ二人なき  
越のうた人惜しまざらめや 晶子

（菅真理子）

\*『山田花作歌集』昭和十四年、新潟新聞社発行



日本海より花作の故郷・佐渡をのぞむ  
晴れし日は藻の香をおもひだみ聲の船唄きこゆ島の子なれば 花作  
ふた親のみたま眠れる佐渡の山われ呼ぶ如し浪をへだてて

## 滋味しみじみ

### 白菜漬け



上田敬様(東京都・深川)

どこよりも早くオープンし、どこよりも遅く閉山するスキー場、みつまた・かぐら。その山麓に仲間7人が共同でスキー小屋を建てた。長男ばかりなので『甚六小屋』と名付けた。1階の玄関に入るには小屋までラッセルをし、スコップで下へ穴を掘り入る豪雪地で、部屋は氷点下、まずストーブを焚き、窓の雪壁から大鍋に雪を入れ水を作ることから1日が始まる。

この寒さを利用して、一斗樽に次に来る人たちのために“白菜漬け”を作る。湯沢駅前へ行き材料を調達する。白菜は八等分にし樽の底から丸く敷き詰める。根元には粗塩を入れ一段目の上には、んにく、鷹の爪、利尻の昆布、愛媛のいりこ、柚子の皮を白菜が埋まるほど振りかける。これを2～4段と繰り返し行い、最後に蓋をし重石を載せる。2～3日で水が上がり週末に来る連中には食べ頃となる。かぐら山はGWまで滑れるので、吹雪く2月までよりも、春スキーの頃に天日で白菜を半日干し漬けると尚おいしい。

## つむぐ 詠み人のリレーエッセイ『TSUMUGU』発売!

本誌「喜怒哀楽」の人気コーナー「詠み人のエッセイ」。この度、2007年2月～2011年2月までの5年間にわたり掲載した10名の俳人のエッセイ30篇が『TSUMUGU』として一冊の本となりました。特典として、著者がリレー形式で次の方を紹介した写真入り小冊子付き。お友だちへのプレゼントとしても最適です。詳細は同封のチラシをご参照のうえ、ぜひこの機会にお求めください。



## オリジナル葉、お使いください

本号に、当社オリジナル葉を同封いたしました。こちらは、ヒューレット・パカード社「Indigo 5600」のホワイトインクを使って印刷したもので、クリスマスイメージしています。

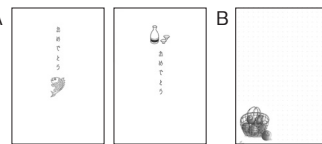
日頃のご愛顧に感謝いたしますとともに、読書のおともとしてご活用ください。



## オリジナルポストカード2種を好評発売中!

ご好評をいただいている当社オリジナルポストカード。同封のアンケート用紙にご希望の種類、セット数を明記のうえ、**必要金額分の切手を同封のうえ封書にてお申し込みください。**

- A 活版印刷(おめでとぅ:鯛・とっくり) A 各3枚計6枚入り1000円
- B 季節のポストカード(今回は「りんご」を同封8枚入り500円)



## 「2015年手帖」お送りいたしました 「ご縁ブック2014」12月中旬に発送いたします

お手元に届いていないという方はお手数ですがご連絡ください。

## スタッフの一言

Q. 今年一番嬉しかったことは何ですか?

※ X'masらしくポインセチアやハンドベルともに

木戸敦子



ノリでエントリーしてしまったハーフマラソン。9月になり、さすがに焦り平日夜も練習を重ね一か月に150km走破。練習期間を含めた1ヵ月半とゴール後の充実感。あの喜びは罪だね。

吉川久美子



5月に京都に行ったこと?でもやっぱりまだ行きたい!! 2泊3日中、2日目の夜まで正気を失っていた(?)ので次は落ちついて(笑)

菅真理子



札幌の羊ヶ丘展望台でクランク博士像とともに、あのポーズで写真を撮ったこと。実は念願でした。…旅行に行けるのも、自分はもちろん皆が元気であるから。感謝です。

山田千秋



ニートだった次男坊が就職してくれたこと。大変だと思うから払っておくよ、と言っておいた携帯代の引き落としもいつのまにか次男は自分で手続きをし、次男払いに…。あたりまえといえどもあたりまえなので、一人前になったなあーと。

木伏美恵



すごーく、すごーく、踊りたいたい嬉しかったことがありましたが、残念ながら内緒です! 毎日楽しく、幸せに過ごせました! 感謝です!!

上村真智子



もう随分前のことのような気がするが、今春娘が第一志望の大学に合格できたこと。そしてそのお祝いに温泉に行って家族で卓球をし、ゲラゲラ笑い転げたことがいい思い出になったなあ。

金子ゆり子



今年も家族・兄弟、みんな大した病気もなく、怪我もなく過ごすことができたこと。此の事が一番嬉しいことです。それによってささやかなランチや旅行も喜びになります。

石山由希子



よい方向へ動いた一年でした。いろんなことがあったなあ…。おじいちゃん・おばあちゃんも一病息災、子どもたちも元気で先が明るい年末です。関わってくれた方々に大感謝。

吉田瞳



七夕の願い事“家族旅行へ行けますように”が叶ったことです。ディズニーランドは子どもたちも大喜び! 夢の国へまた行きたいと家族で願いつつ、お仕事頑張ります☆☆



七五三の写真撮影でとってもいとお顔!! 3歳3ヶ月になりました。



## マイブツク

子どもの頃、本作りを遊びにしていました。もちろん、きちんとした立派なものではありません。チラシを裏返してホッチキスでとめた本。折り紙を切つて重ねたマツチ箱ほどの豆本。和紙を糸でかがつて和本もどきを作ったこともありました。表紙を飾るために、きれいなお菓子の包み紙やリボン、ハギレなどをたくさん集めたものです。本の中身はお話や漫画など。詩を書いたこともありましたが。パソコンはもちろん、コピーもありませんから一冊一冊手作りの本です。一枚一枚の絵や言葉がいくつか束ねられ、表紙という扉がつくと、そこに小さな世界ができる。マイブツクはマイワールド。自分の世界を作りあげる喜びは、大人になつた今でも形を変えて続いています。

歌と関わるようになってから、だんだんと歌集を送っていただく機会が増えてきました。歌集をいただくのは、お互いをよく知っている親しい仲間の場合もありますが、多くは会つたこともない方からです。お互い歌を作っている、という縁で私のような者にも届けてくださるのです。とてもありがたいことだと思います。個人で本を作るということは大変なことです。だからいいかげんな本なんて一冊もないのです。それぞれのマイブツクは切実に言葉を、歌を届けたいという願いの結晶。手にとつてその人の世界と真摯に向き合いたいという思いがあります。

歌集は作品を読むだけでなく本の造りをゆつくり楽しみ

## 里見佳保

一冊一冊の本をこのように丁寧に味わい、解剖するの「ごとく」ご覧くださる方がいらつしやる。そのことを、改めて肝に命じたいと思わせてくれる里見さま最後のエッセイでした。次回からは男性歌人の登場です！

ます。どんな紙が使われているのか手で触れてみたり、ぱらぱらとめくつてみたり、葉紐を挟み直してみたり、カバーや腰巻きと呼ばれる細い紙もはずして書籍本体とどんな調和になっているか、一冊を解剖でもするように確かめます。その度子どもの頃のあの楽しみを思い出します。

たくさんさんの歌集を読んで、歌を歌集というかたちにするとこのことは余白を作ることだ、と思います。この余白が歌集の美であり、歌集を作ることの大きな意味である、と考えています。歌集以外でも新聞や雑誌の投稿欄、結社誌の作品欄など、発表の機会がありますが、小さな活字でぎざぎざり組まれますから、ちよつと窮屈そうな印象を受けます。歌集ではたいがい一ページ二首か三首でレイアウトが組まれることが多く、たつぷりとした余白に歌が置かれます。読み手は余白、行間を歌と共に味わうことで、書き手と一緒に世界を組み立て、その人と時間を重ねることができのです。たとえ会つたことがない方とも、もうこの世にはいない亡くなった方とも。そしてマイブツクを持っていたら自分自身とも。言葉は、歌は千年残るものです。そして時間空間を超えて誰かの心に届くものです。その器としての本をつくづく美しくと今日も手にとつています。

書庫の内にも霜降るやうな冬の日にしたしき一書  
夕暮遺歌集 永井陽子『樟の木のうち』

2014. 12. vol.77 (2014年12月10日発行/隔月発行)  
●発行・印刷/株式会社ミュージズ・コーポレーション  
〒950-0801 新潟市東区津島屋7-29  
喜悲哀楽書房 TEL 025-250-9555 FAX 025-250-9550  
株式会社ミュージズ・コーポレーション 0120-819-395  
e-mail odp@eseihon.com / HP http://www.eseihon.com  
郵便局口座番号 00530-4-81370 口座名 株式会社ミュージズ・コーポレーション

## 編集後記

今回の喜怒哀楽は77号のラッキーセブン。いつも紙面のどこか一つでも、皆さまに幸と心の活力をもたらしますように！と願いながら作っています。来年2月号からは、送料をご負担いただくということで今回が最後となる方もいらっしゃるかもしれませんが。会者定離、会うは別れの始めなり。それでも、出会えたこと、今までのご縁と紙面を盛り立ててくださったご厚情に感謝いたします。そして、来年も皆さまの喜・怒・哀・楽で本紙を彩ってくださる方、今まで以上のラッキーをお届けいたしますので楽しみにお待ちください。本年も誠にありがとうございました。また2月にお会いいたしましよ!! (木戸敦子)